

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業名 | まちなか遊休不動産利活用事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 岡谷 TMO まちなか活性化推進本部 (岡谷市郷田1丁目4番11号) |
| 事業区分 | 地域協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 776,330円 (うち支援金: 421,000円) |

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

閉店や廃業によって空き店舗等が増加し、かつての賑わいが無くなっている中心市街地で、遊休不動産活用専門業者の指導を受けながら、遊休不動産見学会を4回開催した。
また、路上空間活用のため(一社)ソトノバで実施のPark(ing)Dayにホストタウンとして立候補し、受講者とともに空間づくりを実践した。

【遊休不動産見学会】

- 参加者: 24名(6月/6名、8月/5名、10月/6名、12月/7名)

【Park(ing)Day】

- 開催日: 9月16日
- 受講者数: 11名 (県内者6名、県外者5名)
- 開催場所: 市道岡谷275号線 (ララオカヤ南側道路)



【Park(ing)Dayの様子】

【目標・ねらい】

- ①空き店舗の活用
- ②路上空間の活用
- ③まちづくり人材の確保・育成

- ①見学会の参加者は24名にのぼり、空き店舗等の活用を検討している人材と接点を持つことが出来た。
今年度、空き店舗の活用までには至らなかったが、個別相談時に明確なビジョンを持つ人も多く、条件が揃えばマッチングは可能と感じた。
- ②普段、開催地は一般的な道路空間であるが、当日はかつてないほどの賑わいとなった。
また、事業の様子を歩行者や下校中の高校生、地元商店主、行政職員等が見学し、今後の屋外空間活用の可能性を示すことが出来た。
- ③Park(ing)Dayにおいて受講者自らが過ごしたい空間を実現することで、空間づくりやまちづくりに興味を持ってもらうことができ、今後の中心市街地活性化を担う人材候補の拡大が出来た。

※自己評価【A】

【理由】

- 両事業とも市内外から多くの参加があったため。
- ただの路上空間から賑わいのある空間に変化させることが出来たため。
- 受講者に空間づくりやまちづくりについて興味を持ってもらうことが出来たため。

今後の取り組み

遊休不動産見学会への参加者は、微増ではあるが回数を重ねるごとに増えており、継続的な実施による認知度の向上によるものと考えられることから、引き続き見学会事業に取り組みたい。

また、不動産情報の収集・整理を行い、紹介可能な空き物件を増やすことで、物件利用希望者と空き物件のマッチングの可能性を高めたい。

Park(ing)Dayでは、受講者が空間づくりを楽しみながら学ぶことで、まちづくりについても興味を持ってもらうことができ、中心市街地活性化を担う人材候補の拡大を行うことが出来た事業であった。また、同時に屋外空間活用の可能性を知ることが出来るものであった。

今回は(一社)ソトノバのイベントに手を挙げる形であったため、将来的には直営での事業実施を目指しながら継続的に実施していきたい。